

巻 頭 言



小 松 和 久

白石市医師会長

佐藤恒明前会長より会長職を引き継いでから約半年が過ぎました。遠藤雅人先生、大橋隆先生、柿崎周平先生と若い先生にも理事に就任いただき、さらに海上寛先生には再度理事に就任いただきました。これから大いに活躍していただきたいと思っております。

今年は4月に熊本地震があり、夏には台風による大雨、秋にも鳥取地震、この原稿を書いているときにも福島県沖のM7.4の地震が発生と大災害が続き、11月には博多の駅前の大陥没事故が発生しました。気候にも四季が感じられなくなり、夏から一気に冬に突入したような寒さとなっており、体調を崩す人が非常に多かったと思います。

10月に非常に驚く知らせが飛び込んできました。開業して1年ばかりの松永純先生が急逝されたとのこと。10月の木曜会に参加したいという連絡をもらったばかりでしたので大変驚きました。まだまだこれから活躍して頂きたいと思っておりましたのでご本人ばかりではなく我々も大変残念です。ご冥福をお祈りいたします。

今年は選挙の年でもありました。7月に参議院選挙が行われ、医師連盟の推薦した自見英子候補、桜井充候補が当選され、国政の場で医師の立場で大いに活躍されることが期待されます。10月の白石市長選挙では山田裕一候補が当選されました。まだ41歳と若い市長さんで、医療についても勉強しておられるようなので、協力してやっていけるものと期待しております。

海の向こうのアメリカではトランプ氏が大方の予想に反して大統領選挙に勝利しました。選挙期間中に言っていたことを本当に実行に移すのか大変心配されますが、選挙後は少し軌道修正したり、前言を否定するような発言も出てきているようでやや安心ですが、今後も注意深く見守っていかなければならないでしょう。

現在医師会の大きな問題は、地域包括ケアシステムを2025年までに構築しなければならないことです。これは国策ということで宮城県は地域医療・介護連携推進事業を平成30年まで立ち上げるよう各市町に求めており、白石市医師会では白石市、蔵王町、七ヶ宿町の一市二町と連絡協議会を作り、事業にあたらうとしております。今年は連絡協議会設置準備委員会で協議を重ねて連絡協議会の設置要綱を作りました。これを各市町の議会の承認を得て、来年初めには在宅医療・介護連携推進事業連絡協議会が設立される予定になっております。また多職種連携のために講演会を開き、さらに懇親会も行いコミュニケーションを取ることでいよいよ顔が見える関係が築かれてきていると思われま。

システムの構築は順調に進んでいるように見えますが、5年後、10年後の先のことを考えると医師会メンバーをも含めた地域全体の高齢化、看護師不足などの人手不足の進行など頭の痛い問題が山積しております。

医師会の皆様のご協力をよろしくお願いいたします。